様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１３２１２

研究課題名（和文）自閉スペクトラム症の児童にソーシャルシンキングは教えられるか？

研究課題名（英文）Perspective Taking for children with Autism Spectrum Disorder

研究代表者
稲田　尚子（Inada, Naoko）

帝京大学・文学部・准教授

研究者番号：６０４６６２１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、知的障害のない自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder; ASD）に対して、幼児期および児童期に実施できる、ソーシャルシンキングのプログラムの開発を行い、その有効性を検討することを目的として行った。幼児対象には「身体全部を使って話を聞こう」という話を聞く姿勢を楽しくスモールステップで示す紙芝居を開発し、児童対象には「気づきの力」として、他者視点を促進するワークブックを開発した。それぞれを体験的に学ぶためのプログラムも同時に開発し、それぞれの有効性検討を予備的に実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の一環として、ソーシャルシンキングの代表的な三部作（ガイドブック、幼児・児童対象の絵本、思春期対象の漫画）が翻訳され、刊行されたことにより、全国の児童・保護者が日本語でそれらの著作にアクセスできることにつながり、社会的意義が大きい。また、ソーシャルシンキングは、いまだ十分にそのエビデンスが蓄積されていない点が課題であったが、本研究において、新たに「身体全部を使って話を聞こう」の紙芝居、「気づきの力」のワークブックが開発され、その有効性が予備的に示された点で学術的意義も充分にあると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop social thinking programs for preschoolers and schoolers with Autism Spectrum Disorder (ASD) who do not have intellectual disabilities, and to examine those effectiveness For preschoolers, we developed a picture-story show that demonstrates the attitude of listening with the whole body in fun small steps, and for schoolers, we developed a fun workbook "The power of Awareness" that promotes the other's perspective taking. We also developed manuals for learning experientially each of the program, and examined preliminary the effectiveness of each program.

研究分野：特別支援

キーワード：自閉スペクトラム症　認知行動療法　ソーシャルシンキング　集団随伴性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorders: ASD）は、「対人コミュニケーションの障害」と「限定された反復的な行動様式（こだわり）」を主徴とする生得的な神経発達症群の 1 つである（APA, 2013）。最新の疫学調査では、68 人に 1 人が ASD を持っているとされ（CDC, 2014）、決して稀ではないよくある（common）障害である。現在、ASD の中核的な障害である社会性の支援に関するファーストチョイスはソーシャルスキルトレーニングである。知的障害のない高機能自閉症には、とりわけソーシャルスキルを場面や状況に応じて使いこなすことが求められる一方で、柔軟な反応般化の難しさが繰り返し指摘されている。これは、ソーシャルスキルとして社会的なルールを教えても、そのルールを適用するために発動させるべき「心の理論」の習得が不十分であるからと考えられる。従って、ASD 児者の社会性支援のためには、行動の背景にある「心の理論」の保障方略について学ぶための直接的かつ効果的な介入プログラムの開発は喫緊の課題である（稲田, 2016）。

ソーシャルシンキングとは、米国でミシェル・ガルシア・ウィナーによって開発され、人が他者と関わる際にどのようにふるまうべきかについて考えることであり、また、自分自身のふるまい方に他者が与える影響、自身の言動に対する他者の応答、および自分自身の感情、について考えるための枠組みである。心の理論の障害、中枢性統合の脆弱性、実行機能の障害など、ASD の認知障害仮説に基づき、楽しいアクティビティを通してスモールステップで体験的にソーシャルシンキングを指導するための多様なカリキュラムがある。本邦においても、ソーシャルシンキングの多様なカリキュラムを参考にしながら、わが国で実施可能なプログラムを開発する必要がある。また、ソーシャルシンキングは、低年齢の幼児・児童においては、ASD のある子どもに限らず、全員が身につけるべき方略でもあると考えられる。

２．研究の目的

本研究は、知的障害のない自閉スペクトラム症（autism spectrum disorder: ASD）に対して幼児期・児童期から実施できる、ソーシャルシンキングのプログラムの開発を行い、その有効性を検討することを目的とした。

３．研究の方法

【研究 1】

参加者　障害児支援の NPO 団体の夏休み合宿（3 泊 4 日）に参加した小学 4 年生～6 年生の 10 名であった。自閉症診断検査第 2 版（Autism Diagnostic Observation Schedule Second Edition：pectrum disorderADOS-2）を用いて ASD と診断分類された。

他者視点取得のためのプログラム　『きみはソーシャル探偵』（ミシェル・ガルシア・ウィナー著, 稲田・三宅訳, 2016）の絵本あるいは作成したワークシートを用いて、また各回の内容に応じたグループワークやゲームを取り入れながら、授業形式で実施する。ASD の児童 4 名を対象として予備的な検討を実施し、ワークブックおよび実施マニュアルの改訂を行った後に、作成された。開発したワークブックは、①視線に気づく、②他者の感情に気づく、③視線と他者の考えの関係に気づく、④他者が考えていることを考える、⑤二人の他者が違うことを考えたり感じたりしていることに気づく、の 5 つの要素から構成されている。

Figure1 ワークブック

手続き　1 回 90 分全 4 回で構成され、少人数グループで実施した。セラピストは、リーダーが 1 名、コリーダーが 2 名の計 3 名であった。

尺度　プログラムの前後に他者視点取得に関する知識問題を実施した。

倫理的配慮　保護者に対して研究の目的や内容等について書面を用いて説明し，研究参加加への同意を得た。児童に対しては、分かりやすい言葉で説明し、口頭でアセントを得た。

結果　『気づきのチカラ』プログラムが開発された（Figure1）。プログラムの前後に、他者視点取得に関する知識問題を実施したところ、有意な改善が認められた。

考察　コロナ禍のため、十分な実施ができなかったが、他者視点取得に関して、楽しいアクティビティおよびワークブックを通して学ぶためのプログラムが開発され、今後さらに有効性を検証していく必要がある。

【研究 2】

参加者　私立幼稚園の年少クラスに在籍する幼児 20 名と、主担任である 1 名が参加した。クラスには自閉スペクトラム症のある幼児が 1 名在籍した。

支援場面　支援場面は朝の会であり，開始の合図である教員のピアノ演奏から，幼児が次の活動に移るまでとした。

標的行動と測定方法　標的行動は話を聞いていない不適切行動と教員の叱責であった。お話を聞いていないとする不適切行動であり、目で担任を見ていない、手をあげている／手遊びしてい

る、身体が話している人の方に向いていない、お尻が椅子から浮いている／椅子から半分以上落ちている、足を椅子の上にあげている、の 5 つの部位に関する行動とした。教員の叱責は、名前を呼びかける、声かけ、身体に触れて姿勢を直す、とした。朝の会のうち、担任が話をしている 5 分間を抽出した。話を聞いていない不適切行動は、瞬間タイムサンプリング法を用いて、15 秒インターバルで、標的行動が生起していた幼児の人数をカウントした。教員の叱責は、事象記録法を用いてカウントした。

手続き　研究デザインは ABC でデザインであった。(1) ベースライン期ベースラインを定めるために、普段の朝の会の様子をビデオ撮影した。(2) 介入 I 「身体ぜんぶで話をきこう」の紙芝居を用いて、キャラクター「キーク」が身体ぜんぶを使って話を聞く姿勢を学び、その場で実践した。(3) 介入 II　相互依存的集団随伴性を用いた。介入 I で学んだ姿勢をできていれば、筒型の透明ジャーにボールを入れ、ジャーが満杯になればご褒美として、幼児のお楽しみ活動が提供されるというものであった。活動内容は担任が選択し、幼児に人気の手遊びや歌遊びなどが提供された。

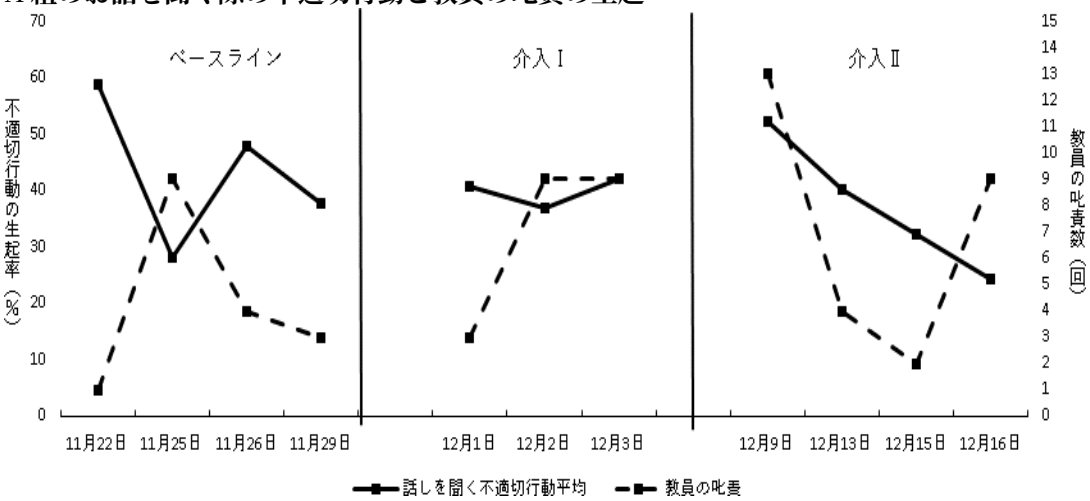
Figure2 身体ぜんぶできこう

信頼性　データの 30%について、2 名で評定し、80%以上の一致率を示すことを確認した。

倫理的配慮 保護者に対して研究の目的や内容, 映像の取り扱い等について書面を用いて説明し, 研究参加加への同意を得た。

結果　ベースライン期には中程度のレベルで変動性のある、お話を聞く際の不適切行動がみられたが、介入 I 期には中程度のレベルで安定し、介入 II 期には減少トレンドがみられた(Figure3)。教員の叱責も介入 II 期でおおむね減少トレンドがみられた。「身体ぜんぶで話をきこう」の紙芝居と相互依存的集団随伴性を用いることで、幼児のお話をきく適切行動が形成されたと考えられる。クラス全体に対しては、他者視点の取得を促しつつ、お話を聞く際の着席行動を改善するための有効なプログラムが開発されたが、一部の幼児に対してはあまり効果が示されなかったため、クラス全体の介入に反応しない幼児に対する個別の介入を含めた段階的な支援パッケージを検討する必要性が示された。

Figure3
A 組のお話を聞く際の不適切行動と教員の叱責の生起



４．研究成果

ソーシャルシンキングの代表的な三部作である「きみはソーシャル探偵」「ソーシャルシンキング～社会性とコミュニケーションに問題を抱える人への対人認知と視点どりの支援」「10 代のためのソーシャルシンキング・ライフ」の日本語翻訳が完成した。また、児童期、幼児期それぞれに使用可能な『気づきのチカラ』『身体ぜんぶできこう』のプログラムが開発され、実施上の工夫や留意点が明らかとなり、今後それらの有効性をさらに検討をしていくための土台が形成された。

他者視点取得のプログラム『気づきのチカラ』は、計画時には想定もしていなかった新型コロナ感染拡大により、集団実施が困難となった。Web 会議システム等を用いたオンラインでの実施等も模索したが、プログラムの内容上対面での実施が望ましく、ようやく感染が収束したため、今後実施していく計画である。『身体ぜんぶできこう』のプログラムは、個別支援も含めた階層的支援について今後研究を推進していく必要がある。しかしながら、研究実施の幼稚園だけでなく、地域の保育園からも実施の要望があり、すでに導入していただいて 2 年目になり、社会的実装も行われつつある段階である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 稲田尚子	４．巻 43
２．論文標題 関係性の発達を支える	５．発行年 2022年
３．雑誌名 発達	６．最初と最後の頁 45-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲田尚子	４．巻 22
２．論文標題 編む・行う－プランニング	５．発行年 2022年
３．雑誌名 臨床心理学	６．最初と最後の頁 38-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲田尚子	４．巻 50
２．論文標題 成人期のADHDの心理アセスメント	５．発行年 2021年
３．雑誌名 臨床精神医学	６．最初と最後の頁 333-338
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 稲田尚子	４．巻 69
２．論文標題 発達特性としての「こだわり」行動	５．発行年 2021年
３．雑誌名 教育と医学	６．最初と最後の頁 478-486
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 稲田尚子	4．巻 62
2．論文標題 成人期のASD,ADHDのアセスメント（特集 「大人の発達障害」をめぐる最近の動向）	5．発行年 2020年
3．雑誌名 精神医学	6．最初と最後の頁 1001-1009
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 稲田尚子	4．巻 45
2．論文標題 発達障害のケースフォーミュレーション	5．発行年 2019年
3．雑誌名 精神療法増刊第6号	6．最初と最後の頁 168-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 稲田尚子・内山登紀夫	4．巻 50
2．論文標題 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害	5．発行年 2018年
3．雑誌名 小児内科	6．最初と最後の頁 818-819
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 稲田尚子	4．巻 18
2．論文標題 発達障害の標準的アセスメント	5．発行年 2018年
3．雑誌名 臨床心理学	6．最初と最後の頁 677-679
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 稲田尚子
2．発表標題 ワークショップ：ソーシャルシンキング
3．学会等名 日本認知・行動療法学会第47回大会（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 稲田尚子
2．発表標題 ソーシャルシンキング
3．学会等名 自閉症スペクトラム学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 稲田尚子
2．発表標題 ソーシャルシンキングを通した自閉スペクトラム児者の自己理解
3．学会等名 日本認知・行動療法学会第44回大会
4．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

1．著者名 内山登紀夫・黒田美保・稲田尚子　監修・監訳	4．発行年 2020年
2．出版社 金子書房	5．総ページ数 149
3．書名 小児自閉症評定尺度第二版（CARS-2）日本語版	

1．著者名 ミシェル・ガルシア・ウィナー、稲田尚子、黒田美保、古賀祥子	4．発行年 2018年
2．出版社 金子書房	5．総ページ数 306
3．書名 ソーシャルシンキング	

1．著者名 下山 晴彦、桑原 斉、田中 康雄、稲田 尚子、黒田 美保、宮川 純	4．発行年 2018年
2．出版社 北大路書房	5．総ページ数 224
3．書名 公認心理師のための「発達障害」講義	

1．著者名 稲田尚子（野島 一彦、増田 健太郎編著）	4．発行年 2019年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 162
3．書名 公認心理師分野別テキスト　教育分野	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関